

## 書籍紹介

加茂具樹編著『中国對外行動の源泉』  
(慶應義塾大学出版会, 2017年)

今世紀初頭からのアジア太平洋地域における力の分布の変化が地域秩序に大きな影響を与え、急速に経済成長した中国がそれを主導してきた。それに加えて、近年の中国の對外行動における政策に関与するアクターをとりまく環境が大きく変化している。本書は中国の對外行動についての構造を国際政治と国内政治という要因から理解することに焦点をあて、その行動様式の変化を様々な角度から描きだそうとする意欲的な成果である。

問題意識を明らかにした序章と、二部構成の全11章の論文からなる。国際政治の角度から検討した第1部「国際秩序のなかの中国外交」では、経済成長にともなって国力を増大させた中国が国際秩序との間に様々な摩擦を生み出しながら、そこに影響を与え、自国の発展にとって有利な国際環境を構築するために主導的で積極的な對外行動を展開していたと論じた。国内政治の角度から検討した第2部「統治構造と對外行動」では、中国が市場経済化の道を歩むなかで国内の政治社会の構造が変化し、對外政策に関与するアクターが分散化し、その過程が緻密化・複雑化している実態を描き出した。このように、本書は中国の對外行動を形作っている構造に注目し、今後の中国の對外行動の展望を見据えて、このテーマに対する問題意識と分析枠組みを共有し、研究と議論をさらに一歩踏み出すための試みといえよう。

本書で特に興味深く読んだのが第9章(王雪萍)である。ここでは、3種類の教科書の国家に対する記述の量的変化を比較し、上海市の教科書改革によって描かれた外国観と世界観の変化を分析し、中国外交と教育の関係性を論じている。他にも国内政治が對外政策に与える社会の圧力・政

策執行・エリート政治を検討した第6章(山口信治)など興味深い論考があるが、紙幅の関係で以下目次だけ紹介したい。

序章「大国意識を示しはじめた中国の對外行動」  
(加茂具樹)

第1部：第1章「中国の對外行動『強化』の分析」(松田康博)／第2章「中国の金融外交」(青山瑠妙)／第3章「『法の支配』の国際政治」(毛利亜樹)／第4章「中国外交における『軍事外交』」(土屋貴裕)／第5章「中国の対EUパートナーシップ関係の発展」(山影統)

第2部：第6章「中国における国内政治・社会の変化と對外行動」(山口信治)／第7章「国内政治のなかの中国人民解放軍」(加茂具樹)／第8章「南シナ海における緊張感の高揚と漁船事件」(マチケナイテ・ヴィダ)／第9章「グローバリゼーションと中国の歴史教育の変容」(王雪萍)／第10章「『韜光養晦』論の提起、解釈と論争」(李彦銘)／第11章「中国の外交戦略と農業外交」(兪敏浩)

(千葉商科大学非常勤講師 矢久保典良)

## 小嶋華津子・島田美和編『中国の公共性と国家権力——その歴史と現在』(慶應義塾大学出版会, 2017年)

本書は、清末から現在までの中国が、強い国家と弱い国家との間で揺れ動いてきた様を、国家権力-公共空間-私的空間という三者の関係性から明らかにしようとする論集である。全7章に通底するこうした問題意識は、中国が民主主義や立憲主義へ移行できるかという問いと密接に関わる。本書もこの点に極めて自覚的である。

まず第1に、本書が、今日の中国との比較を射程に収め、清末から民国期の中間団体を分析していることがそれを物語る。第1章(衛藤安奈)は

# 中国研究月報

Monthly Journal of Chinese Affairs

Vol.72 No.4 (No.842)

2018年4月号

- ▷論文  
持田洋平 1 「国語」教育の分断と連帯——1900年代後半のシンガポール  
華人社会における初等学堂の設立に関する一考察
- ▷論文  
榊原真理子 14 中国演劇におけるゴドーの造形——林兆華を中心に
- ▷研究ノート  
山崎 周 26 現代中国外交と「周辺」の関係性について——  
政府報告活動から見る「周辺」の曖昧化の進行
- ▷書評  
手代木有児 36 倉田明子著 東京大学出版会  
『中国近代開港場とキリスト教——洪仁玕がみた「洋」社会』
- ▷書評  
箱田恵子 40 李文杰著 生活・読書・新知三聯書店  
『中国近代外交官群体的形成（1861—1911）』
- ▷書評  
関 修 42 〈治〉・〈癒〉のコペルニクスの転回に向けて（角屋明彦著 白帝社  
『古典のなかの〈治療世界〉——〈癒〉へのインサイド・アウト』）
- ▷書籍紹介 45 『中国対外行動の源泉』加茂具樹編著 慶應義塾大学出版会（矢久保  
典良）／『中国の公共性と国家権力——その歴史と現在』小嶋華津  
子・島田美和編 慶應義塾大学出版会（吉見崇）／『儒教が支えた明  
治維新』小島毅著 晶文社（竹内健二）／『なぜ、習近平は激怒した  
のか——人気漫画家が亡命した理由』高口康太著 祥伝社（竹内翔馬）
- ▷眼光紙背 48 現実から目をそらす地政学（竹内健二）
- ▷中国日誌 50 2018年3月